



旭自治会だより

令和7年6月2日 第89号 発行 旭自治会

TEL: 0771-22-5533

HPアドレス: kameoka-asahi.com (QRコード)



雨の季節の June bride

日本列島に梅雨が訪れる季節の到来です、旭町の平地を占める水田に美しい早苗が植えられた、初夏の風景が実に綺麗な今、皆様方には日々如何お過ごしでしょうか、今年は5月になって急な真夏日を迎えたかと思うと、最近朝夕急に寒くなったりと、気温の急激な変化がありますが、6月は確実に気温の上昇で日中は熱中症などに気を付けなければならない季節です。朝夕が涼しいと急激な気温上昇には、身体の発汗作用が準備不足で体調を崩すことが多くあるようです。水分補給や適度な休息で、どうぞご慈愛ください。

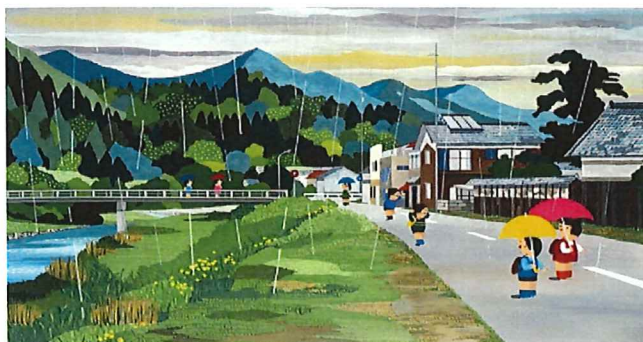
6月になって、日本の四季では雨の季節、雨季とは言わず「梅雨」なんと、うまい言葉なのでしょうか。さて、この季節このごろはあまり耳にすることが無くなったのですが、結婚式のシーズンでもありました。ジュンブライド「6月の結婚・6月の花嫁」と略されていました。なぜ梅雨を迎え湿気の多い、日本の気候では最も過ごしにくい敬遠されるこの時期が、こうなったのでしょうか、おそらく節分の恵方巻の如く、これもブダイダル業者の営業戦略だったに違いないと思い、調べてみると、当たってはいるものの、これにはもっと深く歴史的なヨーロッパからの文化、風習であったようです。古くはローマ神話にある結婚を司る女神

「Juno」ユーノ、英語で「June」ジューン、また、3～5月は農繁期で結婚の儀式が禁止されていて6月に解禁とか、またこの時季のヨーロッパは日本と違い1年で最も良い気候だったそうです。それなりに全てに意味があったようです。ではなぜ日本でも結婚シーズンと呼ばれるようになったのか、日本では気候的にはあまりよくない時季です。すなわち、6月は結婚式場も閑古鳥だったということです。そこで商魂たくましい業界の戦略で「ジュンブライド」と響きの良い言葉を流行らせて、日本で見事に成功したようです。

仕事日本の歴史はこのようなところでも、たくましい業界の歴史を創っていたのかと感心させられます。

さて最近では、モノづくり、アイデア、技術日本の力で当時の経済成長と所得の向上を支えてきた国内総生産世界第2の国も、いまは少し遠くに成りにけり。物量から質の時代、多様化とデジタル化の中で、苦心の時代ですが、また是非良い時を迎えたいものです。

雨ふり、湿気の多い季節になります、今年も夏の催し物、毎年多くの町民の皆様が参加していただきます暑い暑い「納涼祭」、今年も予定し計画を進めております。そこで良いお知らせです、ついに、あの酷暑の講堂に空調設備が設置されます。各種サークルの皆様も快適に活動できそうです。先日から工事が始まりました。こうご期待です、みんなで楽しみましょう。



旭町自治会長 吉川 肇

旭サポートカー事業を見学

～5月13日・20日～

亀岡市社会福祉協議会3名と亀岡市高齢福祉課2名が、令和7年5月13日と20日の二日間にわたり、旭サポートカーの利用状況についての視察にられました。



1日目、実際の送迎の様子をサポートカーに同乗していただき体感していただきました。利用者同士や運転手との話をしながらの送迎を見ていただきました。利用者同士の楽しそうな会話や運転手の気配りなどをみて感心されていました。

2日目は、1日目の見学を踏まえサポートカー事業に対する質問や、こちらからのお願い等様々な話をさせていただきました。高齢化が進む中でサポートカーとしての必要性や高齢者に対してのこれからの問題点等、様々なことをお話させていただきました。



この2日間、実際の送迎風景を見ていただいたことで、サポートカー事業が単なる「移動支援」だけではなく、高齢者同士が意欲的になる場、住民同士のコミュニケーションの場の一つにもなっていることが伝わったのではないのでしょうか。そして旭町にはなくてはならない事業になっていることの理解が深まったように思っています。

また8月に行われる「住民主体の移動支援を考えるセミナー」にて、各地の移動支援・現地見学会で、旭サポートカー事業を見学に来られることとなっています。移動支援がこういった形で大きく広がっていくことを願います。

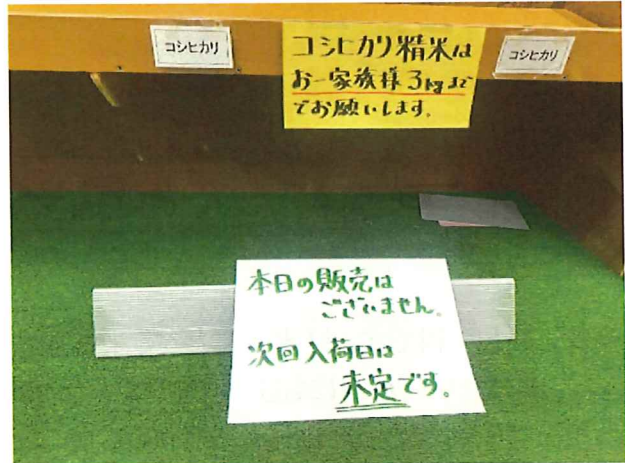
7月3日（木）には、国土交通省認定の「安全運転講習会」を予定しています。

6月 行事予定

- 6月 1日（日） 亀岡市消防団夏季訓練 午前7時30分 亀岡川東学園にて
- 6日（金） 亀岡川東学園 体育祭 午前9時～ 亀岡川東学園にて
- 19日（木） 亀岡市川東地区人権啓発推進協議会午後7時から 亀岡川東学園にて
- 20日（金） エコグリーン 配布 午前8時から 法人旭 倉庫前
- 8日・29日（日） 特別感謝デー 午前9時から「なごみの里あさひ」

～米不足のニュースから、旭町の未来を考える～

2025 年、米の価格が前年の 2 倍以上になり、私たちの「なごみの里あさひ」でも「完売」の文字を目にすることが増えました。2024 年の夏から続いた米不足は、直売所やスーパーにも影響を与え、生活に困難を感じる声が多く聞かれています。特に「食べ盛り子どもたちがいるので困っている」との声や、「農業に頑張ってもらいたい」という応援の言葉もあります。



亀岡市旭町、この美しい田園風景が広がる地域で、農業は私たちの主産業であり、産業の基盤となっています。確かに、米不足や米の価格高騰という厳しい状況の中でも、私たちが育てた米や野菜を自分たちで食べられることは、何物にも代えがたい幸せであり、今だからこそそのありがたみを再認識しています。

昔、農業は全て手作業で、田植え一つ取っても多くの人の力を借りての重労働でした。しかし、今では機械化が進み、手助けが必要な場面もありますが、以前と比べると

確実に楽になり、効率的に作業を進めることができます。こうした改革に感謝しつつも、農業が持つ根本的な魅力を再確認しています。

農業には数多くのメリットがあります。例えば、自然の中で働くことができるという点。現代社会では、デスクワークが増え、自然を感じる時間が減っていますが、農作業を通して、私たちは新鮮な空気を吸い、自然の恵みを感じながら



仕事をしています。そして、自分の手で育てた作物が実る喜びは、何事にも代えがたい充実感を与えてくれます。

また、農業は世代を超えてつながる力を持っています。高齢化が進む中で、旭町で



も若い世代が新規就業として農業に従事することも増えており、その交流が農業の活性化にもつながっています。地域の中で年齢を問わず、意見を交わし合うことで、新しい視点やアイデアが生まれ、農業がますます元気になっていくのではないかと思います。

今、地域が育てる「旭米」は、綺麗な水と空気で育まれ、ほんのり甘くて

美味しいと評判です。日本人にとって米は欠かせない主食であり、冷めても美味しいとされ、おにぎりや寿司にもぴったりで。この旭町で育まれる「旭米」を、これからも次の世代へと受け継ぎ、より多くの皆さんに食べていただけるよう、私たちは努力を惜しまずに続けていきたいものです。

「米不足」という課題は続くかもしれませんが、私たちが協力し、地域の力を合わせて乗り越えていくことができると信じています。高齢者だけでなく、若者たちも一緒になって農業を支えていくことが、旭町の未来を明るくし、活気に満ちた地域作りに繋がると 생각합니다。



これからも、旭町が「高齢者・若者がともに支え合うコミュニティ」の象徴となり、地域の



農業がさらに発展していくことを心から願っています。特に高齢者が農業を支えていくことで旭町に光る「高齢者の青春」を味わってほしいと思います。皆さんとともに歩み続け、未来へと繋がる「旭町農業活性化」の一翼を担っていきたいと思います。